

国際観光都市機能整備調査事業報告書概要

中部国際空港やその周辺エリアにおいて「MICEを核とした国際観光都市」の実現を目指し、魅力ある機能整備の具体化に向けた調査・検討を行った。

1 「MICEを核とした国際観光都市」に相応しい都市機能の検討

(1) 国内外の事例収集

国内外の主要なMICE施設（国内7箇所、海外10箇所）を調査。

- 国内では、ホテル・商業施設等を母都市に依存する「都市型MICE」と呼ぶべき形態が多い。
- 海外では、ホテルや商業施設とともにMICEを一体的に整備することが一般的。

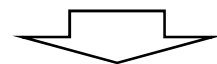
<主な国内外の事例抜粋>

名称	展示場面積	最大の会議場	近隣の主な集客施設
東京ビッグサイト	115,420 m ²	1,000 席	ショッピングモール、博物館など
幕張メッセ	72,000 m ²	1,664 人	ショッピングモール、野球場など
パシフィコ横浜	20,000 m ²	5,002 人	横浜ランドマークタワー、博物館など
(米・オーランド) Orange County Convention Center	190,000 m ²	6,000 人	テーマパーク、水族館など
(西・バルセロナ) Fira Gran Via	190,000 m ²	5,600 人	博物館、スタジアムなど
(香港) Asia World Expo	70,000 m ²	5,000 人	ショッピングモール、テーマパークなど

(2) 空港島エリアに相応しい施設の具体の検討

ア 相応しい施設の具体の検討

国内外の主要MICE施設が備える機能と、空港島エリアの現状との比較から見た、備えるべき機能



(空港島に相応しい施設の機能)

- MICE施設：国際機関、政府間、経済界、学術など様々な分野の国際会議に対応可能であること。
- 宿泊施設：スイートルームの設置、要人向サービスの提供
- エンターテインメント施設：アフターコンベンションやMICE開催時以外にも楽しめるもの。

(整備にあたっての視点、配慮)

- ・多様な文化、宗教等への配慮 / ・ユニバーサルデザイン / ・環境負荷低減

イ 事業成立の可能性

空港島エリアのMICE潜在市場規模を顕在化させるに必要な施設整備の可能性を分析。

- MICEを呼び込むため、またホテル稼働率を維持するためにエンターテインメント機能が不可欠となる。
- 空港島内には、会議場、ハイグレードなホテル、エンターテインメント施設を一体的に整備する十分な開発余地がある。
- これら施設の整備・運営における採算性を見極めていくことが、今後の課題となる。

2 空港を起点とした周遊観光の検討

(1) 国内外における周遊観光の拠点となる施設の事例

事例調査の結果、中部国際空港を拠点として、MICE来訪者の愛知県及び周辺地域への周遊観光を促進する上で、観光案内、多言語対応、情報提供、観光コンテンツ表示の4機能が必要。

(2) 観光資源との連携、および空港島エリアに必要な機能

当地域は武将観光や産業観光などの様々な観光資源を有し、また中央日本エリア9県を繋ぐ広域観光ルート「昇龍道」の起点である。空港隣接という立地特性を活かし、航空機を含めた高速交通ネットワークも活用して、MICE来訪客の豊富なエクスカージョンを提供していく事が求められる。

3 民間事業者へのヒアリング

主に以下のような意見が得られた。

- 会議場、展示場、ホテル、エンターテインメント施設を一体で整備することで、MICE施設の機能が最大限発揮される。MICEが開催されない時のホテル稼働率確保のため、エンターテインメント施設・機能が重要。
- 当地域ならではの観光資源の魅力向上、地域連携、交流機会創出などによるMICE誘致促進が必要。
- Ma a Sなどの最先端技術の積極的導入していくべき。
- 次世代型サービスが展開される場として位置づけ、スタートアップ企業などを呼び込む機会を創出すべき。